

トルコ金融政策（2024年3月）

政治に忖度せず、5%ポイントの大幅利上げを敢行

2024年3月22日

サプライズ利上げでトルコ・リラが反発

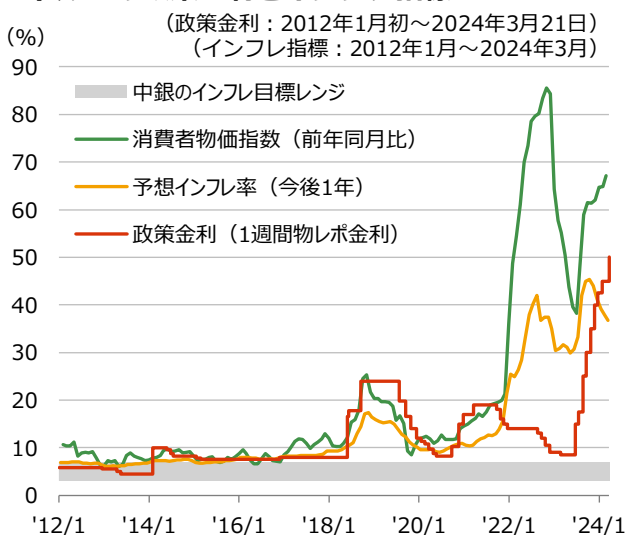
トルコ中央銀行は3月21日（現地）に金融政策決定会合を開催し、政策金利（1週間物レポ金利）を45%から50%に引き上げることを決定しました。利上げは2会合ぶりです。また、翌日物貸出金利と翌日物借入金利をそれぞれ1週間物レポ金利より3%ポイント高い水準と低い水準に設定する、金融政策運営における枠組みの調整も発表しました（従来は1週間物レポ金利の±1.5%ポイントに設定されていた）。

足元のインフレ率が中銀の想定を上回って推移する中、市場で早期の利上げ観測が強まっていたとは言え、今月末に地方選挙を控えていることもあり、政治的な配慮から利上げは来月が有力視されていました。そのため、このタイミングでの利上げはサプライズであり、金融市場はトルコ・リラ高で反応しました。

声明文では、2月のインフレ率がサービス価格主導で予想を上回ったことなどに触れた上で、「インフレ見通しの悪化に対応するため」に利上げを決定したと説明しています。今後について、中銀は年後半のインフレ鈍化を見込んでおり、更なる利上げを基本線とするような文言はありません。ただし、「インフレ率の大幅かつ持続的な悪化が予想される場合」には追加利上げに踏み切る選択肢を保持しています。

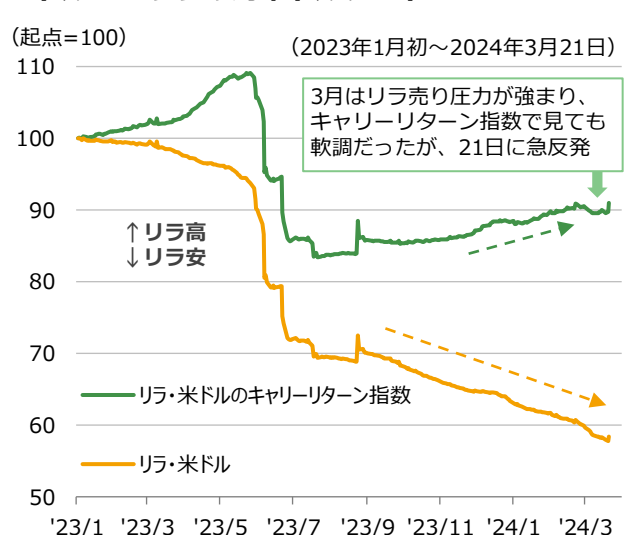
今回の利上げを受けて、先月までのような緩やかなリラ安・米ドル高（金利差を加味すればリラ高）の傾向に回帰すれば、追加利上げの必要性は高まりづらいでしょう。そして、今年後半にインフレ鈍化が明確になり、年終盤以降の利下げ転換が意識される局面では、トルコ国債の価格上昇が期待されます。

トルコの政策金利とインフレ指標



※政策金利は決定日ベース ※消費者物価指数は2024年2月まで
(出所) ブルームバーグ、トルコ中央銀行

トルコ・リラの対米ドルレート



※リラ・米ドルのキャリーリターン指数は、リラ・米ドルにトルコと米国の金利差を加味した値 (出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management